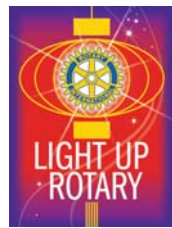




2014～15 年度
国際ロータリー会長

ゲイリーC. K. ホエン

Weekly Report Niigata



ロータリーに輝きを

2014～15 年度 国際ロータリーのテーマ



2014～15 年度
新潟ロータリークラブ会長

高橋 秀樹

新潟 RC 9 月第 4 例会 (2014.9.30) No.3057

(1) ロータリーソング「それでこそロータリー」 斉唱

(2) 高橋 秀樹会長開会の辞

(3) ビジターの紹介

松本英明君(浪江RC), 藤田普君(新潟南RC)

(4) 藤田普ガバナー補佐ご挨拶

(5) 委員会報告

・吉田和弘地区ライラ委員 ライラ研修会参加報告

「まちづくり、人づくり、自分づくり」～小京都加茂の魅力の再発見、そして発信～

去る9月27日(土)、28日(日)の両日に行われた、第14回ライラ研修会(主管・加茂RC、田上あじさいRC)に参加してまいりました。研修生、ロータリアンそれぞれ約70名が参集したこの研修は、新潟経営大学で「まちおこし」のゼミを主宰される中島純教授の、ユーモアあふれる基調講演から始まりました。その後、研修生は市内各地に用意されたプログラムを通じて加茂市の魅力を体験し、それをいかに発信すべきかを検討し、宿泊をはさんで翌日の午後から、グループごとの発表が行われました。2日間行動を共にしたメンバーたちは、それぞれユニークな視点で、堂々と発表に臨んでいました。その姿は、日ごろ若者を間近に見ている私にもとても新鮮で、これからリーダーシップを発揮して活躍するであろう研修生の潑刺さに感動を覚えました。また、加茂の桐たんすの工場や酒造会社などを見学することができ、仕事で何度も訪れているはずの加茂の魅力をあらためて感じる貴重な経験をすることができました。

(6) 同好会報告

・小林建ゴルフ同好会幹事より9月28日のコンペ報告

		グロス	ハンデ	ネット
優 勝	井原 健至	92	20. 8	71. 2
準優勝	長谷川秀彦	97	20. 8	76. 2
3 位	武田 博之	79	1. 6	77. 4
4 位	堀 盛富	102	24. 0	78
5 位	高橋 康隆	94	14. 4	79.6

次回は10/19(日)です。下記会場にて懇親会を行います。懇親会のみ参加も歓迎します。

和食酒場 風花(かざはな)

中央区米山2-7-20

時間:18時30分ごろから

会費:6,000円予定

(7) 各種ご寄付の発表

ロータリー財団寄付発表(樋熊 紀雄委員長)

樋熊 紀雄君

米山奨学会寄付発表(徳永 昭輝委員長)

五十嵐幸雄君 徳永 昭輝君

青少年育成基金寄付発表(山田 隆一委員長)

本間 彊君

(8) ニコニコボックス紹介

・本間 彊君 所用のためフランスに行って来ました。ナント市へ行く途中に立ち寄ったロワール川の古城アンボワーズの美しさのために息が出ました。

・鈴木 滋弥君 新潟RC第4回ゴルフ同好会コンペで下から二番目ですが栄えあるBB賞を頂きニコニコします。

・伊原 健至君 9/28 第4回新潟RCゴルフコンペ、ハンディにも恵まれ優勝させていただきました。ありがとうございます。又、ご一緒させていただきました小林さん、細野さん、お世話になりました。楽しいゴルフありがとうございました。

(9) 表彰

・新会員紹介認証品贈呈

竹石 松次さん、徳永 昭輝さん、桐山晃さん(元会員)

(10) 幹事報告(安藤 栄寿幹事)

・10月よりロータリーレートが1ドル106円になります。

・新潟文化の記憶館から、年間パスポート入会のお願いが届いております。詳細につきましてはロータリー事務局へお問い合わせ願います。

(11) 卓話「人口減少社会の扉を開けた中越地震」

公財)中越防災安全推進機構

復興デザインセンター長 稲垣文彦 氏



(12) 本日の出席率 73.69 %

(2週間前メーク後 85.27 %)

コ ラ ム

(株) 小甚 代表取締役 小山 楯夫
「人生訓」

私たちの生きる目的は何でしょうか？
学ぶことです。
何を学ぶために生きているのでしょうか？
学ばなければならない唯一のことは、どうすれば自己にとらわれないようになるかということです。私たちはそれを学ばなければなりません。学ばないわけにはいきません。ひとりでに学ぶことができなければ、強制されるでしょう。遅かれ早かれ、私たちは自己と決別せざるをえません。最後の日を迎えるまで、自己にとらわれているかもしれま

せん。あるいは自然に、徐々に、そうです、喜びをもって、自己と決別できるかもしれません。

18歳のとき、あなたは100パーセント、エゴそのものです。そうではありませんでしたか？単に自己中心的であるばかりでなく、徹頭徹尾自分のことだけ考えていました。トーマス・カーライルによると、18歳で、人は嫌味の極致に達する、ということです。

それから、仕事に就きます。そして、あなたの自我が屈服します。次いで、結婚します。結婚に伴い、あなたの自我はまた屈服します。そして幸い子供に恵まれましたら、そのときまでには、あの100パーセントのエゴで残っているものはほとんどないでしょう。自我との決別はこのように徐々に、自然に、喜びを伴いながら来ますので、あなたは自分の内部で何が進行しているかほとんど気付かないでしょう。それぞれの経験は、待ち望まれ、言い表しがたい喜びをもって期待されたものです。これは犠牲でしょうか？そうです、犠牲と呼ばれてきたかもしれません。しかし、あなたは、犠牲を払うという榮譽のために懸命に闘ってきたことでしょう。これが極く自然な学び方です。あなたの母親も同じように学んできました。母親の人生は、あなたのよく知っている「Service, not self」という主義を最もよく表わしています。最後の日を迎えたとき、屈服しなければならないものは、彼女にほとんど残っていません。彼女には1パーセントのエゴしかありません。その1パーセントは、揺らぎながら消えていきます。しかし99パーセントは、これまで生きてきましたし、現在も生きています。そして、これからも生きていくでしょう。

私たちの生きる目的は何でしょうか？

学ぶことです。

何を学ぶのですか？

人生を学ぶのです。

人生から何を学ぶのですか？

人生から学ぶのは唯一のことです。人生を送る中で、いかにエゴと決別するかを学びます。

ナショナル・ロータリアン、1912年7月号

10月7日の例会予定

米山奨学生のお話

「日本に来てから今まで」

朴 治国 さん

新潟ロータリークラブ会員専用

ホームページアドレス

<http://www.niigatarc.jp/>